

釧路孝仁会記念病院 CT 検査室紹介

皆さん、こんにちは。釧路孝仁会記念病院 診療放射線科の君島誠と申します。今回は 2018 年 10 月の CT 更新に伴い、道東初となる Aquilion ONE GENESIS Edition が導入されました、当院の CT 室を紹介させていただきます。

当院は釧路湿原のすぐ傍に立地した病床数 232 床の第二次救急指定施設であり、診療放射線技師 18 名で診療を行っております。

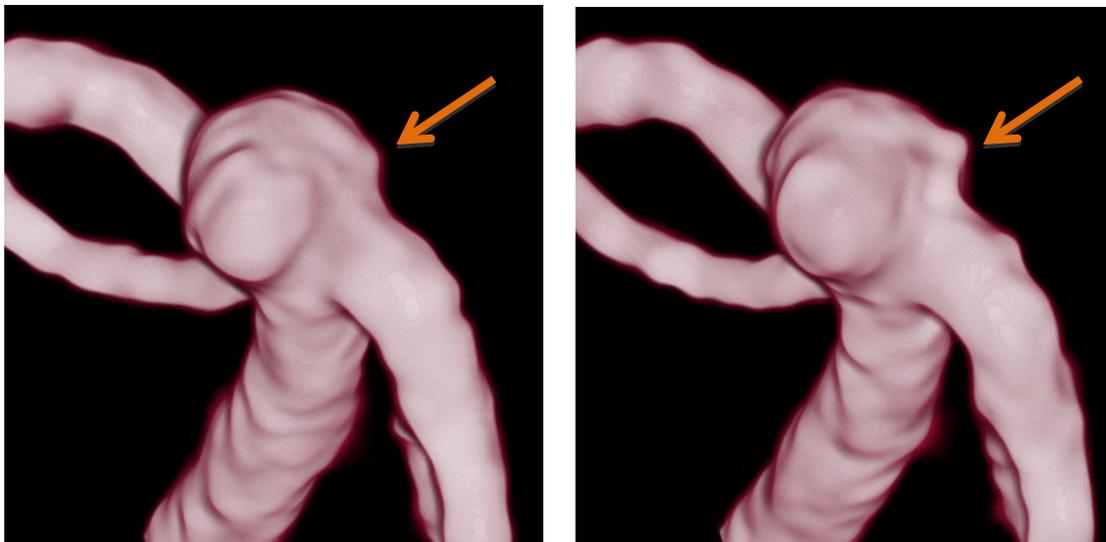


その中で CT の担当は技師 2 名で 1 日 50 件程度の検査をこなしている状況ですが、ONE 導入に伴い検査数が徐々に増加傾向にあります。以前の装置は 11 年前の開院時に導入された装置であったため、逐次近似応用再構成すら出来なかった訳で被ばく低減や画像ノイズには苦慮されていましたが、今では Full 逐次近似再構成まで使えるようになり、非常にうれしい限りです。ただし、検査の幅が広がった分検討しなければならないことも増えたのでこれから色々試していきたいと思っております。



今回導入された Aquilion ONE GENESIS Edition

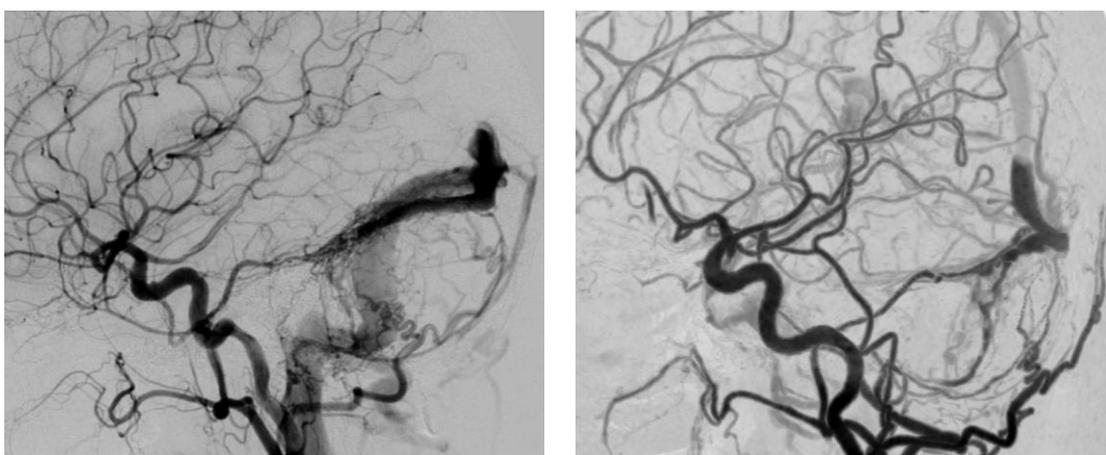
当院では ONE 導入に伴い脳神経外科医から脳動脈瘤クリッピング術の術前検査で心電図同期併用頭部 CTA のオーダーが出るようになり、現在検討を重ねながらプロトコル作成中です。



脳底動脈瘤における心電図同期併用 CTA(矢印が拍動している bleb)

bleb がある動脈瘤は破裂してクモ膜下出血を発症するリスクが高だけでなく、クモ膜下出血を発症した患者の破裂した箇所を特定する上で非常に重要です。

また、ONE の最大の特徴として全脳を 1 回転でカバー出来る検出器を有しているため、4DCTA を撮影する機会も徐々に増えてきました。



AVF 症例における AG(左)と4DCTA(右)の比較

4DCTA は AG と比べて侵襲性の低い検査ではありますが、被ばくが問題になってくるのでこちらも今後の検討課題です。

以上簡単ではありますが、当院の CT 検査室紹介を終わります。